

- 1 主題名 思いやりの心 中2-(2) 【相手のことを思いやり、進んで親切にする】
資料名 心の信号機 (学習研究社)

2 主題について

- このような価値の追求を

本主題は、「相手に対する思いやりや親切な心を持ち実践できる児童を育てようとする」内容項目を受けたものである。

困っている人を助けたいという、人を思いやる心は誰もがもっている。この思いやりの心とは、相手の立場に立って親身に考える心であり、その気持ちを時と場に応じて行動に移すことが親切という行為である。よい人間関係を築いていくには、相手の立場を考え気持ちを推し量ることが必要である。相手の立場や気持ちを考えることによって、その心情に共感でき、相手に対する理解が深まってくる。そうすれば、相手と接する際の話の聞き方や表情、言葉のかけ方にも変化が出てくる。そのような関わりの積み重ねによって、子ども達は自分のよさや可能性に気付くとともに、自分のことが好き、自分のことが大切だという気持ちが芽生えてくる。それが自信となり、よりよい人間関係を築いていこうとする子どもの育成につながると考える。

この段階においては、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の現在の状況、困っていないかどうかを想像することによって、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように指導していくことが大切である。

そこで本主題では、相手の気持ちを考えて、身近な人すべてに対して思いやりの心をもって接することの大切さに気付かせ、進んで親切にしようとする意欲を高めていきたい。

- このような子ども達だから

本学級の子ども達は、興味・関心のあることに意欲的に取り組み、ふれあい集会やなかよしグループでは、本校の児童だけでなく、地域の方とも積極的に言葉を交わすことができる。また、相手の考えをしっかりと聞き、よいところを取り入れて物事に取り組むこともできる。さらに、困っている人を助けたいという気持ちが強く、友達が困っているとき素早く駆け寄り、自分にできることに取り組むなど、子どもが支え合って生活している。

そこで、相手の気持ちをより深く考えることができるようになったこの時期に、思いやりの対象を広げ、表面的な部分だけではなく、相手の立場や心情を考えた言動をとっていけば、さらによりよい人間関係が築けることに気付かせたい。また、困っている人と出会ったときに、相手がどんな状況なのかを推し量る心や、状況によっては声をかけることの大切さに気付かせ、よりよい人間関係を築いていこうとする意欲をもたせることは大変意義深い。

- 資料をこのように活用して

本時の中心資料「心の信号機」は、主人公のぼくが横断歩道にさしかかったとき、目の不自由な男の人を見つける。困っていることが分かったぼくは、横断歩道を渡るのを手伝おうとするが、見知らぬ人に声をかける勇気がどうしてもわいてこない。しかし、困っている人を放っておかず、思い切って声をかけ、一緒に横断歩道を渡る。渡り終わった後に男の人にお礼を言われ、後ろ姿を見送った後ほっとするという内容である。

指導にあたっては、勇気がなく声をかけるかどうか迷う気持ちや、決心して声をかけ、一緒に横断歩道を渡った後の気持ちに共感させながら、ねらいとする道徳的価値を追求していきたい。

そのために、まず、目の不自由な男の人のことを心から心配しているぼくの気持ちを、言葉や態度から丁寧におさえたい。次に、恥ずかしさからなかなか声をかけることができないぼくの揺れ動く心を共感的にとらえさせたい。最後に、思いやりの心を大きく膨らませて決心して声をかけ、一緒に横断歩道を渡った後、後ろ姿を見送るぼくの気持ちに共感させ、道徳的価値の把握を図りたい。

そして、自分の生活の中で、友達や周りの人に親切にしたことを振り返り、道徳的価値の内面的自覚を図りたい。

3 本時のねらい

困っている人の身になって考えることの大切さに気付き，進んで親切にしようとする態度を育てる。

4 本時指導について

学校の諸活動との関連【事前】	ねらい	相手の身になって考えたこと，親切にできたことに気付かせる。
	手だて	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「すてきな心を見つけよう」に取り組み，親切にできたことを書かせる。 ○ ボランティア活動や学校の諸活動において，ねらいとする活動を見つけたら，その姿のよさを伝えたり，賞賛したりする。 ○ 総合的な学習「ふれあいをひろげよう」でのアイマスク体験，車椅子体験での交流で，親切にできた姿を写真で掲示する。

発達段階の応じた語り合い【心がわかる】	ねらい	揺れ動く主人公の気持ちに共感するとともに，相手の立場に立って考えることの大切さに気付かせる。
	内容	歩き出すと足がゆっくりになってしまったぼくの気持ちについて
	手だて	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心情テープ <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくの揺れ動く気持ちを視覚的に分かりやすくするため，心情テープで，声をかけたい気持ちとかけられない気持ちを表させ，変化するたびに動かすように助言する。 赤…声をかけられない気持ち 青…声をかけたい気持ち ○ 二人組での語り合い <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人の子どもが，声をかけたいけどかけることができない理由を発表する。次の子は，友達の考えに共感できることを言った後，自分の考えを発表する。その後，互いに強まった考えやなるほどと思った考えを発表する。

いきいきとした振り返り【心がはたらく】	ねらい	自分の生活の中で，友達や周りの人に対して，迷ったけれど親切にできた経験を振り返る。
	関連する諸活動とその内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「なかよしタイム」での低学年との交流 <ul style="list-style-type: none"> → 低学年の子が泣いているのを見て，放っておけなかったので声をかけた。 ○ 総合的な学習の時間「ふれあいを広げよう」での福祉体験や地域の方との交流 <ul style="list-style-type: none"> → 「何かお手伝いできることはありませんか」と声をかけたり，食事のお世話をしたりしたら，お年寄りの方に喜んでもらえた。
	手だて	福祉施設での取り組みを写真で提示したあと，道徳ノートに記述させる。

5 準備

資料「心の信号機」(学習研究社) 道徳ノート 挿し絵 資料音読時の効果音
 心情テープ アイマスク・車椅子体験の感想 写真 スクリーン パソコン 手紙


6 展 開

段階	主な学習活動と内容	教師の支援や手だて	期待する子どもの反応・発言
心 が う ご く	<p>1 感想文をもとに、自分の経験を想起し、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>めあて こまっている人を見かけたとき、どんな心が大切なのか考えよう。</p>	<p>○ 相手に対する思いやりの心を振り返らせるために、車椅子・アイマスク体験のときの写真を提示する。</p>	<p>○ 写真や感想文をもとに、発言したり、発言にうなずいたりしている。</p>
心 が わ か る	<p>2 資料「心の信号機」を通して、困っている人に会ったときの心について話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。 (2) 目の不自由な方が困っていることを知ったぼくの気持ちについて話し合う。</p> <p>横断歩道を渡り終えようとしたぼくはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>(3) 手伝いたいけれど、見知らぬ人に声をかけられないぼくの心について考え、語り合いをする。</p> <p>いざ歩き出すと、足がゆっくりになってしまったぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>①心情テープを動かし、道徳ノートに記述する。 ②二人組で語り合いをする。 ③全体での語り合いをする。 (4) 男の人から「ありがとう」と言われて左右に分かれ、見送っているぼくの気持ちについて話し合う。</p> <p>男の人の後ろ姿を見送っているぼくは、どんな気持ちだったでしょう。</p>	<p>○ 男の人が困っている様子や、ぼくのやさしい心、迷う心分かるように、つぶやきや、様子を黒板に位置付ける。</p> <p>○ ぼくの揺れ動く気持ちを相手にわかりやすくさせるために、心情テープで表させ、その気持ちを道徳ノートに記述させる。</p> <p>○ 一人一人の考えが全体に分かるように事情テープを動かしてから道徳ノートに記述させた後、隣の人と語り合いをさせる。</p> <p>○ 語り合いによって変容した自分の考えを表すため心情テープを動かすようにさせる。</p> <p>○ 迷いながらも親切な行為をやり遂げたときの充実感や満足感をとらえさせるために、主人公の「ほっとした」という気持ちを板書に位置付け、その理由について話し合わせる。</p>	<p>○ 主人公の気持ちを共感的にとらえながら、発言したり友達の発言を聞いたりしている。</p> <p>主人公になりきって ・困っているみたいだな。 ・交通事故にあったらどうしよう。 ・手を貸してあげたほうがいいかな。</p> <p>主人公の気持ちを考えて ・きっと誰かがしてくれると思っています。 ・困っているから勇気を出して助けようと思っています。</p> <p>主人公になりきって ・声をかけてよかった。 ・無事に渡すことができた。 ・安心した。 ・うれしい ・人の役に立つことができた</p>
心 が は た ら く	<p>3 自分の生活の中で、周りの人に親切にできたことを振り返る。</p> <p>今までの生活の中で、困っている人を見て、迷ったけれど、親切にできたことを振り返りましょう。</p> <p>4 教師の話聞き、今後の生活への意欲をもつ。 ○ 福祉施設の方の手紙</p>	<p>○ 子どもが自分の経験を想起しやすいように、福祉施設での姿を写真で提示し、道徳ノートに書かせて、発表させる。</p> <p>○ 手紙を紹介することで、親切にされた側の思いを感じ取らせるようにする。</p>	<p>・他の学年の子が泣いているのを見て、放っておけずに声をかけた。 ・はずかしかったけど、声をかけたり、食事のお世話をしたりしたら、喜んでもらえてうれしかった。</p> <p>○ 自分たちの体験の意義を感じながら話を聞いている。</p>

7 板書計画

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for writing lesson plan notes.

8 道徳ノート

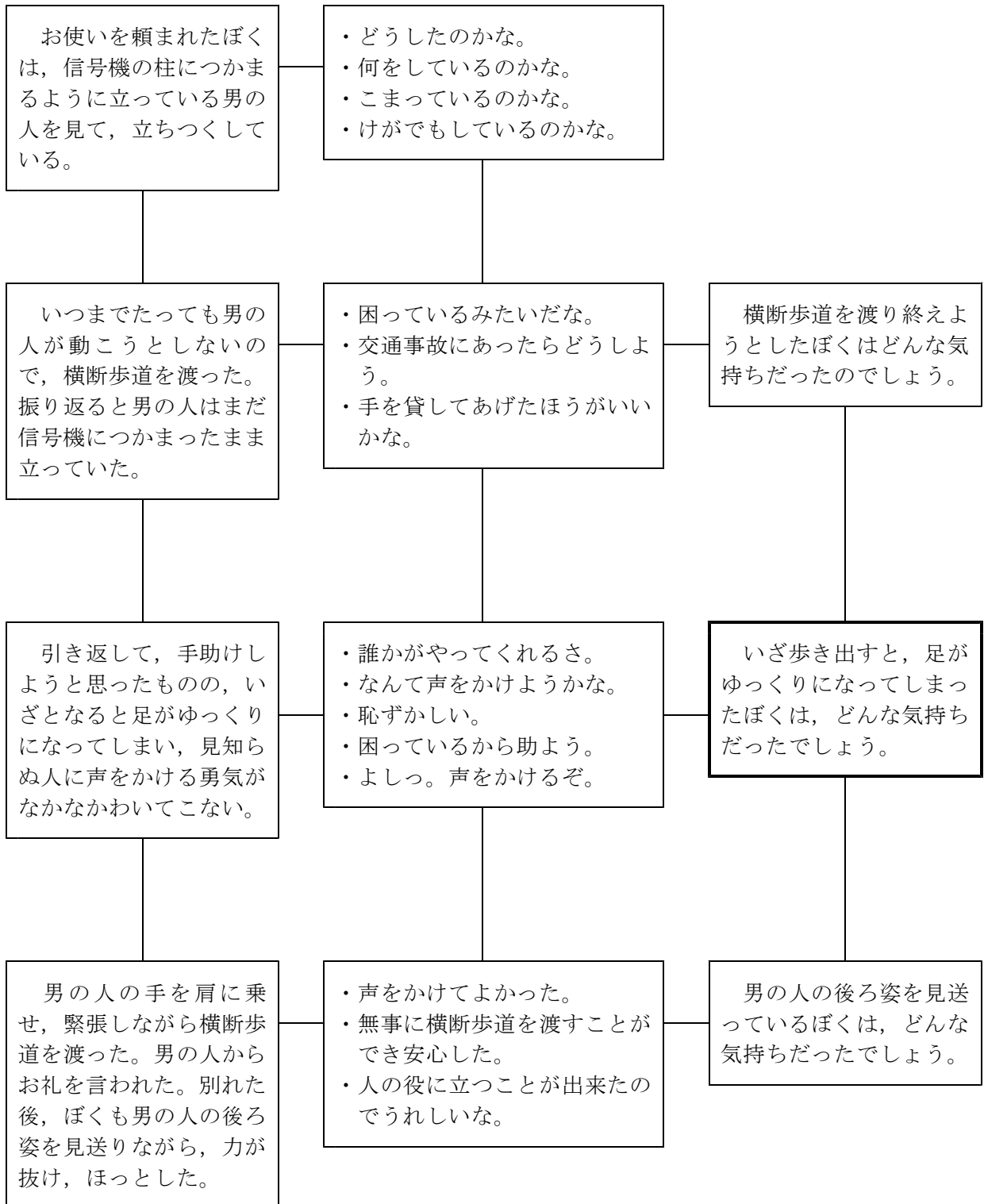
A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for writing moral notes.

9 資料分析

[場面]

[人物の気持ち]

[主な発問]



- 2 -

- 1 -

- 4 -

- 3 -